

令和元年度第3回東村山市立図書館協議会 報告資料

1. 12月議会 一般質問

渡部 英子議員 (公明党)

<選ばれるまち、東村山へ 教育水準向上のために>

平成30年度決算で東村山市の小中学校における学校図書館の標準図書数について質疑した際、「市内の公立図書館からリサイクル本を利用する、また学校が必要な時期に必要な本を購入できるように予算配当などを行っている。また本を選定する際には図書館担当教諭や学校図書館司書が連携した中で授業が充実するための教科書関連の本や調べ学習用の本を重点的にそろえたり、読書意欲が高まるように一人ひとりの個性や発達に合わせた本を揃えており、学校図書の質の向上と充実に努めているところである。」との答弁だった。

学校図書の充実については、教育水準の向上は20代～40代に選ばれるまちになるために重要な条件であることから、量と質の両面から確認したい。

(1) 量的な充実、標準冊数の充足率について

- ①平成28年10月13日文科科学省児童生徒課作成の平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果について、見解を伺う。
- ②平成30年度末の市内小中学校各校の蔵書数、購入数、廃棄数、標準冊数に対する充足率を踏まえて、最低と最高及び平均を伺う。
- ③②や周辺市との比較を踏まえて、見解を伺う。

(2) 質的な充実、廃棄基準及び図書購入費について

- ①平成30年度の市内小中学校の学校図書費決算額を踏まえ、最高と最低及び平均を伺う。
- ②このような差額が生じる理由を伺う。
- ③図書を置く場所が足りないというご意見もあるが、昭和時代の百科事典や読まれない本などは廃棄する必要がある。現行の廃棄基準を伺う。

(3) 次の10年間の総合計画を考えるうえで、20代～40代に選ばれるまちになるために、教育水準の向上は重要な条件であり、SDGsの観点からも第4のゴール「質の高い教育をみんなに」にも呼応するところである。

学校図書の充実は目に見えない空気のような環境づくりであり、特に子供たちの読書習慣が育つ小学校においては大人たちの責務であると考えます。渡部市長の見解を伺う。